

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和6年度第1回西脇市地域福祉計画推進会議
開催日時	令和6年8月8日(木) 午後1時30分～2時30分
開催場所	西脇市役所 3階大会議室
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	牛居義晴、久米敏正、大橋正子、伊達恵一、坂本修三 吉田昇、岡野雅代、高瀬利明、河原淳、藤原八穂、 高須賀千枝、林千恵子、柴垣美佐枝、小山貴由、 齋藤周藏、正井明信、長谷川智春
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	谷口泰司、藤井志帆、新保安章
出席職員の職・氏名又は人数	福祉部長兼福祉事務所長 伊藤景香 社会福祉課 課長 正木万貴子 社会福祉課 課長補佐 廣畑万紀 社会福祉課 職員 長井隼也 株式会社 名豊 主任 長尾雅也
傍聴人の数	1人
協議又は協議事項	(1) 西脇市地域福祉計画の推進状況について (2) 次期計画策定に向けたアンケート調査について
会議の記録	
発言者	内 容
事務局	1 開会 委員の出席は17名 傍聴者は1名 (資料確認)
市長	2 市長あいさつ
事務局	3 委員紹介 委員から自己紹介 (委嘱状交付) 事務局職員等の自己紹介
事務局	4 会長・副会長の選出 会長は齋藤委員、副会長は谷口委員と河原委員に決定

会 長	あいさつ
副会長	あいさつ
事務局	5 西脇市地域福祉計画の策定について（諮問） 市長から西脇市地域福祉計画の策定について諮問を行う。
市 長	（市長から諮問） 市長は所用により、退席させていただく。
事務局	6 協議事項 ここからは会長が議長となり、進行をお願いする。
会 長	議事録署名人の指名 齋藤会長と牛居委員に決定 (1) 西脇市地域福祉計画の進捗状況について、事務局から説明願う。
事務局	（事務局より資料説明）
会 長	事務局から説明があったが、何か質問はあるか。
事務局	事前に2名の委員から、質問を提出いただいております。
委 員	質問1点目。人口減少が加速していることが感じられ、ボランティア活動等でも、人手がない、人材不足ということが言われている。そのような状況の中で、いろいろな事業を展開されていくことになるが、回数だけで評価するのではなく、中身を濃くしているものや、合同開催にするもの、統合を検討しているものはあるか。 2点目。乗合タクシー「むすブン」は便利だが、いろいろなところで「予約がとれない」と聞く。市民にとっては、まだ使い勝手がよくないという印象だが、増便の予定はあるか。
事務局	1点目の行事等の合同開催については、例えば、障害福祉に関しては、手話のイベントを人権教育課のジュニアじんけん教室とコラボレーションして開催する予定である。また、社会福祉法人連絡会では学用品ドライブを行っており、ボランティアグループやこどもプラザとも連携して実施している。他には、社会福祉協議会の子育

事務局	<p>てボランティア養成講座等も、ファミリーサポートセンター事務局のシルバー人材センターの方と協力して実施している。行政もボランティアも人材確保が難しい中、できるだけ相乗効果がでるように、連携・共催を続けていきたいと考えている。</p> <p>2点目の乗合タクシー「むすブン」については、担当課のまちづくり課に確認したところ、現在、「むすブン」の増便の予定はない。令和5年4月10日から1台増便し、現在は6台で運行しており、増便により利用者が増加し、予約がとれずに断る件数も導入前に比べ減少し、順調に進めることができていると聞いている。バスやタクシー等他の公共交通機関とのバランスの取れた運行は、公共交通ネットワークを保つうえで大切であるため、「むすブン」のサービスの領域を広げていくことは、他の交通事業者を含め、慎重に検討することが必要だと考える。今後も、西脇市の公共交通ネットワーク全体としてバランスのよい運行を行い、公共交通が相互にうまく機能するように進めていく予定となっている。</p>
委員	<p>5点、質問する。1点目だが、1ページでは、右側の評価が、横ばいのために、いずれもC評価となっている。継続的に同一指標で追跡把握をしている意義は、大変大きいと思うが、上の基本方法の中で、「参加する人の割合が高くなるように」という方向付けがされているので、ただ「回数が増えた」「減った」だけでなく、今後は、参加者数の継続把握も必要になってくるかと思う。担当者は現状維持に努めたのにC評価となると、やる気を削がれるのではと懸念する。</p> <p>2点目であるが、2ページ目では、令和元年度から令和5年度は「―」がついているが、これは「データなし」と理解した。数値が出せないということは、指標に無理があるからではないかと思う。もちろん、全市民アンケート調査は毎年できないので、表現の方法や項目を変えていくが必要だと思う。数値の欄に「―」を示す意味はないように思う。</p> <p>3番目。3ページ目の指標名(施策)に「保護者の割合」や「市民の割合」とあるが、分母の数、分子の数を知りたい。</p> <p>4番目。7ページの上から3段目に関して、私どもは、西脇市老人クラブ連合会という比較的健康的な高齢者の集団だが、市では生涯学習課が高齢者大学シニアカレッジとして、同じように健康的な高齢</p>

<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>者集団を統率、管理されていると聞いている。その在籍者数を聞きたい。また、生涯学習課としては、1人×1日を1講数として、年間どれぐらいの数をフォロー、管理のために使っているかも聞きたい。</p> <p>5点目。31ページの下から3段目で、右側に「個別避難計画を優先して作成する対象者を選定し、自治会役員や民生委員と調整しながら、担当相談員やケアマネジャーへ作成を依頼していく」とある。私は、地元の野村町で参画したことがあるが、万が一のときの避難体制のための個別避難計画をつくることは、非常にハードルが高いと感じる。個人情報保護法が「聞いてはいけない」「把握してはいけない」「行ってはいけない」という理解できない状態のまま一人歩きをしている印象を受けている。以前は、お隣組織によって、地域のどの家のどの部屋に、どのような方が寝ているのか」「いくつぐらいの子どもがいるのか」というようなことも把握できていたが、今はそのようなことは不可能で、避難計画をつくる上で、網羅しにくい状況である。この個人情報保護法を正しく運用できるように、「これはできる」「これならできる」ということがあるということ、市として、市民全員に徹底して教育し直す必要があると強く思う。個人情報保護法が阻害していると個人的に感じている。</p> <p>できる範囲での回答を願う。</p> <p>1点目は、意見の通りだと考えている。事業を統合して行えば、回数は減るので、次期計画の指標については検討していきたい。</p> <p>2点目は、本日の会議でこの後に審議する市民アンケート調査は、計画策定時のみ実施するアンケート調査なので、毎年度の数値が未記入になっている。それを成果指標にしていることも、次期計画で検討したいと思う。</p> <p>3点目は、3ページの「高齢者が安心して暮らすことができると感じる市民の割合」から、「社会保障制度」までの3つの指標については、総合計画の市民アンケート調査から引用している指標になる。毎年実施しており、令和5年度調査では、1,000件発送して、回答は421件であった。421件中の割合となり、「高齢者が安心して暮らすことができると感じる市民の割合」は42.3%で178件、「障害のある人もない人も、互いに理解し、尊重し合っていると感じる市民の割合」は36.9%で154件、「社会保障制度の手続・相談の窓口を知っ</p>
----------------------	---

	<p>ている市民の割合」は 64.6%で 271 件である。</p> <p>4 点目の意見について、生涯学習課に問合せたところ、シニアカレッジの在籍数は、現在 327 人で、事務局は非常勤も含めて、常勤換算した人数は把握できていないが、延べ 3 人、1 年間のカリキュラムを 26 講座設けている。</p> <p>5 点目は、個別避難計画を作成する対象は、福祉票を提出されている方が主になる。その方には、防災活動を目的として、自主防災会等への情報提供は本人同意をいただいております、その同意に基づき、個人の情報を関係者間で共有することは違法ではない。このことについての理解を、今後も広めていく必要を感じている。その同意のもと、計画策定を行うことになるが、台風等の災害時に、避難せずに家にいたいという方もおられ、なかなか理解が進まないことも現状である。ケアマネジャーや障害者相談支援専門員の力を借りながら、一人ずつ理解いただけるように進めているところである。</p>
会 長	<p>他に意見等はあるか。なければ、次の協議事項を行う。</p> <p>協議事項(2)次期計画策定に向けたアンケート調査について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(事務局より資料説明)</p>
委 員	<p>団体アンケート調査票を書こうとしてみたが、質問の意味がわからなかった。市民アンケート調査の 2 ページ、問 7 に「居場所」に関する設問があるが、「あなたにとって、自宅以外に気軽に行ける場所がありますか。」というところまでわからず、回答に「自分の部屋」「お店」「インターネット空間」とあり、これらを居場所と呼んでいるのだとわかり、上に戻り「ある」に丸を打った。例示がないとわからないと思う。また、「自宅以外に」と言いながら「自分の部屋」という項目があることも変だと思う。読み込むと迷路のように感じる。最後の方も、社会福祉協議会に関する設問が数多くあるが、なぜ社会福祉協議会のことを聞かれているか理由がわからない。質問の意図がわからない。団体アンケート調査については、区長や町内会長が答えればよいと思う。</p>
事務局	<p>問 7 の設問の文言については修正を加える必要があると思うが、この新しい設問は、こども・若者の意識と生活に関する調査を参考</p>

	にして、「ここに居たいと感じる居場所」から引用している。
委 員	例示がないと回答できないという意見である。
事務局	団体アンケート調査は、前は選択式であったが、今回は記述式にしている。自由に回答していただき、率直な意見を伺いたい理由からである。時間があれば、ヒアリング調査も実施したいと考える。
会 長	連合区長会にこの話をして、ヒアリングをしてまとめる方がよいと思う。それぞれの地区によって問題が違うので、多くの意見が出ると思う。地域活動や消防、福祉等、いろいろなことがあるので、違う場所を設けていただく方がよいと思う。
事務局	期間があるので、調整したい。オンラインで実施することも可能ではないかと思う。
会 長	他に意見がなければ、以上で本日予定していた協議事項はすべて終了とする。委員には円滑な会議の運営に協力をいただき感謝申し上げます。
事務局	<p>次回の会議は、市民アンケート及び団体アンケート調査の報告と次期計画の策定に向けて、協議をいただきたいと考えている。</p> <p>会議日程は、来年2月を目途に開催したい。日程が決まり次第、改めて案内させていただきます。</p>
	<p>7 閉会</p> <p>それでは以上をもって本日の会議を閉会する。</p>